

第14回 エンピカルソフトウェア工学研究会

次 第

2007年10月25日 13:00～17:00
会場:キャンパスイノベーションセンター(東京・田町)

1. プログラム

13:30-13:35	開会
13:35-14:05	ソフトウェアプロセスの詳細分析手法について 奈良先端科学技術大学院大学 教授 飯田 元
14:05-15:00	EASE 研究紹介 「定量的データ分析による知見の導出事例」 奈良先端科学技術大学院大学 特任助教 角田 雅照 「相関ルール分析 NEEDLE のバグ票とプロジェクトデータへの適用」 奈良先端科学技術大学院大学 助教 森崎 修司
15:00-15:15	休憩
15:15-15:45	EASE 研究の適用事例紹介 「SPI におけるツール利用と研究機関との協調」 パナソニック MSE 株式会社 ユビキタスネットワーク事業 eソリューション開発グループ グループマネージャー 松井 恭 様 「コードクローン分析を利用した類似バグ検出」 パナソニック MSE 株式会社 ユビキタスネットワーク事業 eソリューション開発グループ 主任技師 佐々木 健介 様
15:45-16:05	ESEM2007 ベストペーパー受賞記念講演 「試験工数の適正割り当てのためのバグモジュール予測の一技法」 奈良先端科学技術大学院大学 博士課程 亀井 靖高 奈良先端科学技術大学院大学 准教授 門田 暁人
16:05-16:20	休憩
16:20-16:45	STAGE プロジェクトの紹介 「エンピカルデータに基づくソフトウェアタグ技術の開発と普及」 奈良先端科学技術大学院大学 教授 松本 健一
16:45-16:55	閉会

2. 配布資料

- 資料1 : ソフトウェアプロセスの詳細分析手法について
- 資料2 : 定量的データ分析による知見の導出事例
- 資料3 : 相関ルール分析 NEEDLE のバグ票とプロジェクトデータへの適用
- 資料4 : SPIにおけるツール利用と研究機関との協調
- 資料5 : コードクローン分析を利用した類似バグ検出
- 資料6 : 試験工数の適正割り当てのためのバグモジュール予測の一技法
- 資料7 : エンピカルデータに基づくソフトウェアタグ技術の開発と普及